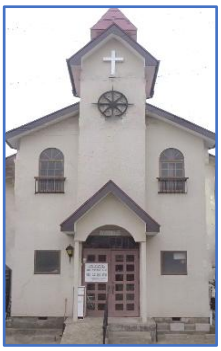
第　68　号

2026（令和8）年9月30日



教会だより
ミルトス

ミルトスは、水がなくても育つ強い木であることから不死のイメージがあり、祝福と繁栄の象徴の木と言われている。

日本バプテスト教会連合
八千代キリスト教会
牧師　小林政和
八千代市大和田新田 94-77
Tel:047-450-1536・Fax:047-473-3925
E メール：gpnng725@gmail.com
URL/https://yachiyokyokai.org
郵便振替：00190-4-554373

今年のみ言葉　ローマ人への手紙 8 章 34 節

「だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。」

どなたでも　ご自由にお入り下さい。 お待ちしております。
日曜日・午前10時30分・礼拝
水曜日・午後1時30分・祈祷会

「私たちは連合の中の一教会です」　　牧師　小林　政和



無事に 30 周年記念礼拝と感謝会を行うことができました。30周年記念誌「ヤコブの梯子」第8号もできました。台風が来ると言うのに、上福岡教会と練馬教会からも車でお祝いに駆けつけてくださいました。その逞しさに圧倒されました。上福岡教会は50周年、練馬バプテスト教会では75周年を経ている大きな教会です。私たちは連合の中の一教会です。その2つの教会から大きなビジョンを与えていただき、学ぶことが数多くあります。上福岡教会の牧師だった荒木寛二先生が2019年10月に当教会へメッセージにおいで下さり、12月には召天される何とも寂しいことがありました。当教会の説教が最後の奉仕だったことは、申し訳ない（いいえ有り難かった）といつも思っています。

私は献身の決心をし、青雲の志を抱いて上京したことを「ヤコブの梯子」8号に書きましたが、奉仕教会の練馬での未知の体験と、新しい刺激を受けたことを書く紙面がありませんでした。泉田昭牧師（おいで頂いた渡邉純子姉のお父様）、石井忠雄副牧師（おいで頂いた石井廸子姉のご主人）のお二人の先生に多大な薫陶を受けました。泉田昭先生には聖契神学校でも「キリスト者の社会責任」の授業を、自ら著書「断絶時代の倫理」から教えて頂きました。100人程もある教会学校の生徒さんの前に、石井校長は多くの青年たちを教育して担任教師になれるように躾けていました。私も教育期間を経て、小学上級を担当することになりました。津田千代先生も幼稚科を担当して下さり、若い人たちの指導に当たりました。石井校長は夏にはキャンプ、秋春に軽い遠足等に子供たちを連れて行く企画を立て、私も参加させてもらいました。分級の部屋が足りず、当時宣教師の館（実はそこに、泉田ファミリーと石井ファミリーが住んでおられたのです）の空き部屋を使わさせて頂きました。お二人の先生には私たちの教会を見て欲しかったです。

この度、純子姉、廸子姉が来てくださること聞いた時には、神様からの天使が送ってくださったのだと錯覚するほどでした。神学生時代に自分が育った練馬教会に転入会して、籍を置いて学び、再び伝道に遣わされます。でも牧師たちはいつも心に練馬教会で学んだものがあります。それが宝です。そういう練馬教会、上福岡教会（多くの献身者を出している）に限らず教会で訓練を受け出て行って、祈られながら連合の新しい教会が産み出されてゆくのです。

お知らせ

10月7日（水）祈祷会にて

マス小林師（小林正則）（1949～カナダ・アルバータ州在住）が来日。この日に八千代キリスト教会祈祷会に出席し、特別講演を予定しております。皆さまのご来聴をお待ちしております。

教会の花壇

ケイトウの花が見事に咲きました。去年植えた花の種が自然に落ち、発芽・成長したものです。（8月2日撮影）下橋



9月20日（日）日曜礼拝・八千代キリスト教会　創立30周年記念祝会

午前中は30周年記念礼拝。全員の写真撮影の後、感謝会が行われました。台風25号が関東地方に接近して遠方からの方々が無事来られるかが心配されましたが、小雨程度でホットしました。





まずは来賓の方々の挨拶。それぞれに、小林牧師ご夫妻との関わり合いや興味深いエピソードなどが披露されました。次は教会メンバーの自己紹介。信仰の証しや教会とのつながりなどの体験談が有りました。実りある豊かな時間になったこと、感謝します。（下橋）



特別寄稿　　マス小林師　（小林正則）



遠いカナダからお便りしております。私は新潟県高田市に生まれ育ちました（直江津市と合併し、現在上越市となっています）。3人兄弟の末っ子として生まれ、母に甘やかされ育ちました。共働き世帯で、幼心の中に男親に対する、嫌悪が生まれていたことに気が付きませんでした。高校時代に入り、その男親に対する意識が悪化していきました。人の心は醜いものですが、もっと深刻な問題は、それに気が付かない事が常であると言う事ですね。

私は、一時も早く男親の元から離れたいと思い、出来るだけ遠いところ、外国に行きたいと思う様になりました。それがきっかけで、英語を学びたいという想いが強くなりました。高田聖書教会に宣教師が土曜日の午後、英語聖書研究をやっている事を知り、それが理由で、教会に土曜の午後出席する様になりました。

神様は私達を、神様を喜び、礼拝するために造られました。神様と歩む平安と休息の生活です。しかし、死を恐れ、人を憎み、争いの絶えない世界に私達は生きています。どうしてその様な人生を私達は歩まなければならないのでしょうか。神様と歩む喜びと、平安の歩みはもう得る事が出来ないのでしょうか。そのような心の葛藤を知るかのように、宣教師はイエス様の十字架の福音を話してくださいました。18歳の時でした。心に住む罪を示され、私が、受けなければならない罰をイエス様があの十字架の上で、私の代わりに、罪の支払う罰をイエス様が受けてくださった、そのイエス様の愛にとらわれ、救っていただきました。今思えば、真に主に在る奇跡でした。知っているようで、知らなかった十字架が、私の人生と切っても切り離す事の出来ない事実、あの十字架が私の為であったことを知った時の喜びを，一人でも多くの人に知って頂きたいという想いでいっぱいです。

教会及び運合のスケジュール（予定）

9月14日（月）東京地区教会の牧師会、夕方東京地区連合委員会
9月20日（日）創立30周年記念礼拝
10月07日（水）マス小林先生を迎えての特別集会
11月08日（日）召天者合同記念礼拝
11月26日（木）横田早紀江姉を囲む拡大祈り会

お祈り下さい

1）床上浸水した真砂教会の礼拝場の確保と教会の回復のために
2）ネパール土石流で被災された家族のために。リ・チャン師の働きのために
3）横田めぐみさんをはじめ拉致被害者の方々が、早く家族に帰れるように
4）三郷教会の大澤美保夫人の、抗がん剤治療が副作用なく用いられますように
5）上福岡教会において、よい時に良い牧師が与えられますように

「30周年記念誌を発行して」　下橋祐次

創立30周年を迎え、4月のイースターの後、記念誌を発行するための原稿募集、編集作業に入りました。

思った以上に作業量が多く、一時は、記念日に間に合わないのではないかと心配しましたが、8月末までには、何とか編集も終わり、仮製本をして、すべてのデータ資料を印刷会社に渡しました。そして無事、当日皆様のお手元にお届けすることが出来ました。ひとえに、原稿をお寄せいただいた皆様のお力添え



と、何よりも神さまのお導きによるものと感謝しております。ありがとうございました。

お手にされたら、どうか全ページに目を通してください。原稿をお寄せ頂いた方々の心のこもった証しを読むことができます。皆様の心の糧になることを確信しております。

3分間講座　ジョットの名画「小鳥への説教」

アッシジの、サン・フランチェスコ大聖堂の壁面に書かれた聖フランチェスコ伝の連作画を見ようと、多くの絵画ファンが訪れます。お目当ては、その中の1枚の絵「小鳥への説教」(359X262cm)です。フランチェスコは生きとし生けるものを愛した人ですが、とりわけ鳥類には深い愛着がありました。あるとき、野原を飛び回る鳥たちに説教を始めると、木に止まっていた鳥たちもつぎつぎと舞い降りて、フランチェスコの話に聞き入ったそうです。説教の中身は「あなたたちの創り主から着るものとして羽毛を、飛ぶために翼を、そして食べ物と、必要なものすべてを与えられている。その創り主を心から褒め称え、感謝しなければならない」というものでした。そして鳥たちは、その話にうなずきながら飛び立ってゆきました。

この絵を書いたジョット・ディ・ボンドーネ(1267～1337)は貧しい羊飼いでしたが、有名な画家チマブーエに才能を見い出され、サン・フランチェスコ大聖堂の壁画制作を手伝うようになりました。やがてその優れた手腕から、連作壁画の制作まで任されるようになったのです。ジョットの才能は、手の動きや体の向きで人間の感情を表現し、さらに信仰の力さえ、目に見えるように描けるほどに高いもので、30歳代で画家として最大級の名声を得るまでに大成しています。あらためて「小鳥への説教」の画面を眺めると、聖フランチェスコがやさしい眼差しで両手で小鳥たちに語りかける言葉が聞こえ、小鳥たちがジッと言葉に耳を傾けている様子が、巧みに描かれているのが見て取れます。ジョットは若い頃から写生一筋に腕を磨いた人で、書かれたものは静かで、写実的というよりも、力強く現実味のある画面に仕上がっていたといいます。この画風はのちの洋画の世界に大きな影響を及ぼして、いまになっても、ジョットは「西洋絵画の父」と呼ばれています。（池田）



「小鳥への説教」ジョット・ディ・ボンドーネ作 1295～1299 年

編集後記：インフルエンザが広がっている様です。通常は冬の乾燥期に流行するのに、今期は夏の暑い日から多くなっています。原因の一つとして、猛暑のため、冷房を掛け締め切った部屋で密の状態で長時間過ごすことが多く、感染してしまったのではないか、ということです。部屋の換気をよくすること、人と接するときはマスクをすること、手をよく洗うこと、身近なところから実行しましょう。（下橋）